

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大宮東小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	単元や内容ごとに知識の定着に差が大きい。まとめや振り返りを大切に行い、国語の言語活動や算数での算数的な活動、社会での調べ活動、理科の実験など、体験的な学習を重視しながら、学習内容の定着を図っていく。児童一人ひとりが単元ごとの達成状況を踏まえ、「ドリルパーク」、「スタディサプリ」などタブレットを活用しながら、定着を図っていく学習を推進する。
思考・判断・表現	国語の授業では、学習内容に応じて、思考・判断・表現を伴う学習活動を授業に取り入れ、学習課題に対して自分で考え、まとめ、発表する場や時間を十分に確保するとともに、根拠を明確にした思考の過程を重視する指導を実践する。算数では算数の用語を用いて、お互いの考えを深めたり、広げたりできるよう、伝え合う活動を工夫して行う。
主体的に学習に取り組む態度	「これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」が80%台に留まり、課題がみられる。課題設定や学習の進め方など、児童の主体性を重視する活動を推進しながら、交流の場を確保し、ICT機器を有効に活用して、児童一人ひとりの個別最適な学習の実現を目指す。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R5年度市学習状況調査の国語・算数の「知識・技能」において、すべての学年でR4年度市学習状況調査を国語で3ポイント、算数で2ポイント上回る。	⇒ 国語の言語活動や算数での算数的な活動、社会での調べ活動、理科の実験など、体験的な学習を重視しながら、学習内容の定着を図っていく。「ドリルパーク」や「スタディサプリ」を活用し、漢字や計算問題に取り組み、基礎的、基本的事項の確実な習熟を図る。
思考・判断・表現	R5年度市学習状況調査の国語・算数の「思考・判断・表現」において、すべての学年でR4年度市学習状況調査を国語で3ポイント、算数で2ポイント上回る。	⇒ 児童が考える時間を確保し、ノートやワークシート、タブレットを用いて考えを表し、互いに考えを交流する場面を計画的に設ける。国語の授業では、学習内容に応じて、思考・判断・表現を伴う学習活動を授業に取り入れ、思考の過程を重視する指導を実践する。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度市学習状況調査「コンピュータを活用して、学習内容の理解度や、興味・関心に合わせて学習することができましたか」において、5・6年とも95%を上回る。	⇒ すべての児童にとって必要感のある課題設定ができるよう問題提示を行う。また、解決の見通しをもつ場、自力解決の場、交流の場を確保しながら、ICT機器を有効に活用して、学習の理解度に応じて主体的に学びながら課題に取り組むようにする。

<小6・中3>(4月～5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	国語、算数とも目標には届かなかった。2学年で前年度を下回った。国語の言語活動や算数での算数的な活動、社会での調べ活動、理科の実験など、体験的な学習を重視した授業展開を行った。「ドリルパーク」や「スタディサプリ」を活用した基礎的、基本的事項の確実な習熟を図る場面での児童の定着度の確認、修正等が必要であった。	C
思考・判断・表現	国語、算数とも2つの学年で前年度を下回る結果となり、目標は達成できなかった。互いに考えを交流する場面を計画的に設けた授業展開に努めたが、方法等を検討する必要がある。	C
主体的に学習に取り組む態度	「コンピュータを活用して情報を集めて整理したり、分析したり、まとめたりする学習をすることができましたか。」の質問項目で、5年93.3%、6年90.1%と目標には届かなかった。ICTの活用を進めてきたが、児童の学習意欲や興味関心に沿ったものであったかを検討する必要がある。	B

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語、算数とも-3ptであった。国語の日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる問題で無解答の児童が多かった。敬語の学習場面以外にも、様々な学習、日常場面で定着を図る。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語、算数とも-1ptであった。算数の「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる」の問題に課題がある。用語を正しく使いながら考えを説明する活動を工夫していく。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査の「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使いましたか」の設問で、「ほぼ毎日」「週3回以上」が85%程度あった。より一層、タブレットを活用した学びを推進する。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。			
小3	国語では漢字の定着、「我が国の言語文化に関する事項」、主語と述語の関係の理解を中心に課題があり、他の領域にも課題が多い。算数科では「数と計算」「測定」の領域で課題が見られ、特に小数の減法の計算の正答率が低かった。	小4	国語では概ね学力の定着が図られている。漢字の使用、文中の主語と述語の関係を理解する設問で課題が見られた。算数では基本的な学力の定着が見られたが「図形」で課題が見受けられ、角の大きさを判断する設問の正答率が低かった。
小5	国語では、多くの領域で課題が見られた。特に、主語と述語の関係への理解、目的に応じた文章全体の構成についての正答率が低かった。算数では、「数と計算」「図形」の領域で特に課題が見られた。社会では概ね学力の定着が図られていた。理科では解剖顕微鏡の操作方法の理解、月の動きについて課題が見られた。	小6	国語では「書くこと」に課題が見られ、敬語の使用、俳句を詠んだ作者の心情や情景についての正答率が低かった。算数では「数と計算」に課題が見られ、1にあたる大きさを求めることに除法が用いられることへの理解を問う設問の正答率が低かった。社会は概ね基本的な学力の定着が図られていたが、年表を用いた設問に課題が見られた。理科では「命」を柱とする領域、「地球」を柱とする領域に課題が見られた。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ ICT機器を有効に活用した解決の見通しをもつ場、自力解決の場、交流の場の充実を図るとともに、アプリを活用し、学習の理解度に応じて課題に取り組むようにする。

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大宮東小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p><学習上の課題> 単元や内容ごとに知識の定着に差がある。</p> <p><指導上の課題> 基礎的、基本的事項の確実な定着、習熟を図る場面、時間設定が不十分などがある。</p>	⇒ 授業の中で基礎基本を定着する指導を繰り返し行っていく。児童一人ひとりが単元ごとの達成状況を踏まえ、「ドリルパーク」、「スタディサプリ」などタブレットを活用しながら、定着を図っていく個別最適な学習を推進する。まとめや振り返りを大切に行い、国語の言語活動や算数での算数的な活動、社会での調べ活動、理科の実験など、体験的な学習を重視しながら、学習内容の定着を図っていく。
思考・判断・表現	<p><学習上の課題> どの学年においても記述型問題の無解答率が他と比べると高く、苦手意識がある。</p> <p><指導上の課題> 話す、聞く態度の徹底を図りながら、自己表現する素地を確立していく指導が不十分などがある。</p>	⇒ 学習内容に応じて、思考・判断・表現を伴う学習活動を授業に取り入れ、学習課題に対して自分で考え、まとめ、発表する場や時間を十分に確保するとともに、根拠を明確にした思考の過程を重視する指導を実施する。教科関係なく授業の中で、お互いの考えを深めたり、広げたりできるように、伝え合う活動を工夫して行う。また、確実な授業規律の定着も必要である。

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能		
思考・判断・表現		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	<p>国語の主語・述語の関係をつめる問題に課題がみられた。解答類型を見てみると、文章の最初にある単語を主語と捉えている児童や修飾と被修飾語の関係をつめることができていない児童がみられた。</p> <p>算数の直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係をつめる問題に課題がみられた。円柱の展開図から、それぞれの関係について正しく理解できていない児童あり、無解答率も全国と比較し高かった。また、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかについて全国同様に正答率が低く、無解答率も高かった。</p> <p>学習場面において、主体的に学び、課題に対して粘り強く取り組むことで、無解答率を下げるができることと考える。</p>	
思考・判断・表現	<p>国語の目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書く問題に課題がみられた。また、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる問題にも課題がみられた。ともに記述式の問題であり、課題に対して自身の考えを表現することを苦手とする児童がみられた。</p> <p>算数の道のりが等しい場合の速さについての問題に課題がみられた。この問題も記述式であり、問題を読み取り、自分の考えを表現する問題にを苦手とする児童がみられた。国語での無解答率が高く、全国の無解答率を上回っていた。</p>	

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

③分析共有(児童生徒の実態把握)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能		
思考・判断・表現		

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	<p>個別最適な学びを推進する過程で、児童に評価規準を示す指導法を取り入れるなど、児童の主体的な学びをどのように形成するかについて議論が進んでいる。タブレットの活用が進む中で、学習アプリの活用も多くみられるようになった。</p>	<p>大きな変更はなし。授業の中で基礎基本を定着する指導を繰り返し行っていく。タブレットを活用し、学習アプリなどで定着を図っていく。また、まとめや振り返りを大切に行い、国語の言語活動や算数での算数的な活動など学習内容の定着を図っていく。</p>
思考・判断・表現	B	<p>学習内容に応じて、思考・判断・表現を伴う学習活動を授業に取り入れ、学習課題に対して自分で考え、まとめ、発表する場や時間を十分に確保しようと工夫する様子が全体としてみられ、根拠を明確にした思考の過程を重視するなどの工夫もみられる。また、協働的な活動をクラウドを通して行うなど、他者参照等の主体的な学びに対する取組が進んでいる。</p>	<p>引き続き、思考・判断・表現を伴う学習活動、学習課題に対して自分で考え、まとめ、発表する場や時間を十分に確保する。ただし、根拠を明確にした思考の過程を重視する指導や自身の考えを言葉で表現する活動に重点を置く。</p>

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)